

新型コロナウイルス感染症

オミクロン株 B A. 5 への置き換わりを見据えた感染防止に向けて

これまでより感染力が強いとされるオミクロン株 B A. 5 の感染者数が全国的に急増しています。

夏休み・お盆期間中は、帰省や旅行、イベントへの参加など、人との交流の機会が増えるため、家族、友人をはじめ、重症化リスクの高い高齢者などを守るためにも、ワクチン接種の検討をお願いします。

また、家庭内や職場はもちろん、特に人が集まる場面でのより一層の基本的な感染対策の徹底をお願いします。

1. ワクチンの接種

- 2回目接種から約5ヶ月後にはワクチンの効果が大幅に低下します。 10代から40代の若い世代の皆さんの3回目の接種率は、3割から5割台にとどまっており、若い方であっても、重症化したり、倦怠感などの症状が長引いたりする可能性があります。3回目接種によって、接種後長い期間にわたって高い抗体価を持つ人の比率が増えて、発症や重症化を予防する効果が期待され、皆さん自身を守るだけでなく、家族、友人、高齢者など大切な方を守ることにつながります。早めの接種をご検討ください（1回目、2回目の接種もできます）。
- 高齢者の方等の4回目ワクチン接種は、7月から8月にかけて多くの人々が接種時期を迎えますので、重症化リスクを避けるため、早めの接種をご検討ください。
- アレルギー等の理由で接種を控えていた方は、武田社ワクチン（ノババックス）の接種が開始されています。

2. 夏休み・お盆の感染防止

- 夏休み・お盆は人との交流の機会が増えるため、帰省や旅行の際にはワクチン接種または検査の陰性結果を確認するなど、感染拡大防止に努めましょう。
- 発熱、のどの痛み、咳など少しでも体調が悪い場合は、外出や帰省、旅行を控え、すぐに医療機関を受診しましょう。

3. 基本的な感染対策の徹底

- 予防効果の高い不織布マスクの着用や手洗いなどの手指消毒を徹底しましょう。
- 屋外で会話をほとんど行わない場合や十分な距離（2m以上を目安）が確保できる場合は、熱中症防止のためマスクの着用は不要です。
- 冷房時でも3密（密閉・密集・密接）を回避するために十分な換気を徹底しましょう。

令和4年7月22日

倉敷市長 伊 東 香 織